

# 町制施行55周年記念 ロゴマーク

たくさんのご応募ありがとうございました

▶問合せ 企画グループ ☎079(435)0356

平成29年4月1日に町制施行55周年を迎えることを記念して、記念事業やPRグッズなどに使用するロゴマークを10月下旬から11月末日にかけて一般から募集しました。その結果9歳から84歳までの応募者から57件の作品が届き、選定委員会の審査により次のとおり決定しました。

▶採用作品の作者 永見保さん(加古川市在住)

▶作品の説明

緑豊かな住宅街のイメージと、隣接する新島の海や川の流れをイメージして、町制施行55周年を意味する55を「葉」と「水のしぶき」でシンボリックに表現しました。

弥生時代後期の代表的な遺跡があるオポナカの竪穴式住居をシルエットで表し、古代と現代(いま)、“うるおいきらめく”未来はりをデザインしました。

## 播磨町町制施行55周年



## 播磨町町制施行55周年



播磨町町制施行55周年 55th anniversary

# 播磨町歴史 NEWS

まちの発展と文化財にまつわる秘話などを歴史ニュースとして紹介します。

▶問合せ 播磨町郷土資料館 学芸員 渡辺昇 ☎079(435)5000

## 再び、土山駅は輝いていた(土山駅繁栄期)

前回、土山駅が中心地になる可能性を示しましたが、それ以外にも土山駅が栄えていたことを示す事象があります。それは「播州名勝巡り」です。例えば、明治44(1911)年田山花袋が著した『新撰名勝地誌』巻之七「山陽道之部」には「土山駅を下車し別府の手枕の松より尾上鐘、高砂相生之松、石の宝殿、曾根之松を経て曾根駅に出づ」と記されています。土山駅が起点になっていたことがわかります。



▲旧土山駅

明治21(1888)年12月23日に土山駅は開設されます。来年(2018年)で130年ということになります。畑の真ん中に当時ではとても広い、幅8mの道路が敷設され、現在の駅前通になっています。貨物駅も併設されていたので、それに伴うにぎわいもありました。播州米の一大出荷場でもあり、穀物以外にも多くの物資移動の拠点になっていました。明治36年には明治天皇が陸軍演習謁見のため土山駅に下車されました。さらびやかな衣装を着た付け人も多く、子どもたちが旗を振ってお迎えし、にぎやかだったと伝えられています。

土山駅が交通の要衝(十字路)となる土鶴線計画は挫折し、明治27年に播但線の元となる播但鉄道が、明治33年に福知山線の元となる阪鶴鉄道が開通します。これによって大きな夢は絶たれてしまいましたが、それによって別府鉄道が実現したとも言えます。別府軽便鉄道会社として大正4(1915)年に設立されて一昨年100年になりました。廃線から31年目の一昨年特別展を開催しました。多くの方々から懐かしい意見を聞かせていただきました。外者から見て土山駅周辺はやや寂しい割に飲み屋が多い印象があります。これはそれ以前の別府鉄道や多くの工場の存在によるものでしょう。橋上駅に加えてBiVi土山の完成によって、土山駅周辺の新たなにぎわいが期待されます。



▲昭和30年代の土山駅北側



▲昭和60年代の土山駅北側



播磨町教育委員会学校教育グループ  
栢田 いづみ

### 子どもの「つぶやき」

私は、子どもたちの傍にいてその発言に耳を傾ける時、幸せを感じる。そこには、子どもたちの素直な発見や驚きの「つぶやき」があるから。例えば…

〈ふるい(篩)〉

砂場で使ったものを片付けている時、「ふるい」の表示が付いているカゴに、端が欠けているものばかりを入れていた女の子がいた。「どうしてそこにを入れるの?」と尋ねられたその子は、「だって、古いもん!」とすまし顔。ふるいの表示を、道具の「篩」ではなく「古い」と理解していたのだ。同音異義語が巻き起こした子どもらしい行動がかわいい。

### 〈飛ばれへん〉

「鳥の羽根、見つけたあ!」と、両手に1本ずつ抜けた鳥

### 〈しっかりした石鹸〉

固形石鹸で手を洗いながら「このせっけん、しっかりしたせつけんやなあ!」とつぶやく子ども。どういう意味か分からず先生に尋ねると、泡石鹸から固形石鹸に切り替えたところらしい。泡石鹸との感触の違いを「しっかりした」ということばで表現した感性に脱帽。

### 〈座らへん〉

見付けてきたダンゴムシの動きをじっと目で追い、「ダンゴムシ座らへんなあ」とつぶやく。確かに私もダンゴムシが座ったところを見たことがない。歩き続けるダンゴムシを見て「座ったらいいのに」と思った子どもの優しさがうれしい。

子どもの素直なつぶやきを聞いた時は、子どもの気持ちに戻れる素敵な時間。ゆったりとした気持ちで、子どもたちの話を耳を傾けてみませんか?